

令和5年度  
公立高等学校入学者選抜学力検査問題  
国語

第一問 次の問いに答えなさい。

問一 次の文の——線部①～⑥のうち、漢字の部分はその読み方をひらがなで書き、カタカナの部分は漢字に改めなさい。

窓から外を眺める。①

新たに社員を雇う。②

観光客を誘致する。③

草木で布をソめる。④

未知のリヨウイキを探求する。⑤

白熱した試合にコウフンする。⑥

問二 次の文の——線部①、②のカタカナを漢字に改めたものとして、正しいものを、それぞれあとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

説明に対してタントウ直入に質問をする。①

ア 統 イ 刀 ウ 党 エ 投

発表会の会場探しに東奔セイソウする。②

ア 走 イ 早 ウ 操 エ 創

問三 次の行書で書かれた漢字を楷書で書いたとき、総画数が最も多いものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 雲 イ 移 ウ 絹 エ 閣

問四 ある中学校の生徒会役員は、近隣の保育園と毎年交流会を行って来す。今年も、生徒会役員のAさんたち四人が係となり、三週間後に行う交流会の活動内容について話し合いました。次は、Aさんが司会となって話し合ったときの【黒板の一部】と【話し合いの一部】です。あとの(一)～(五)の問いに答えなさい。

【黒板の一部】

保育園との交流会について

目的

ふれあいを通じて、楽しい時間を過ごしてもらう。

参加者

・園児(4～5歳児)20人  
・生徒会役員10人

活動内容

【案Ⅰ】 積み木ドミノ倒し  
【案Ⅱ】 ドッジビー  
【案Ⅲ】 手作り人形劇

【話し合いの一部】

〈Aさん〉

これまで出された案をもとに、交流会の目的に合っているか、準備が可能かどうかという観点から、交流会の活動内容を決めよう。【案Ⅰ】から【案Ⅲ】は、全員が参加できるものばかりだね。まず、目的に合っているかを考えるよ。

〈Bさん〉

【案Ⅰ】の積み木ドミノ倒しは、全員で一本の長いドミノの列を作り、倒して遊ぶというものだから、難しい作業もなく、園児と一緒に楽しく活動できそうだね。

〈Cさん〉

そうだね。ドミノを倒すときは盛り上がりそうだね。でも【案Ⅱ】のドッジビーもよい案だと思うよ。ルールはドッジボールとほぼ同じだけれど、ボールの代わりに柔らかい円盤を使うから、当てられても痛くないし、全員で楽しく活動できるね。

〈Dさん〉

確かに、ドッジビーは楽しく活動できる案だね。でも、少し心配なこともあるよ。ドッジビーは、小学校低学年くらいになればルールを理解できそうだけれど、園児全員がルールを理解して楽しめるか、保育園への確認が必要になってくるね。

〈Aさん〉

なるほど。【案Ⅲ】の手作り人形劇をする案はどうかな。

〈Bさん〉 人形劇は、見ている園児も、演じる私たちも一緒に楽しめる

よい案だと思うよ。手作りした人形を保育園にプレゼントすれば、交流会後も遊べるし、私たちとのつながりもできるね。

〈Aさん〉

② 三つの案のうち、【案Ⅰ】と【案Ⅲ】は目的に合っているけれど、【案Ⅱ】については、保育園への確認が必要だから保留とするよ。次は、準備が可能かどうかという観点から考えてみよう。

〈Cさん〉

【案Ⅰ】については、保育園にある積み木の数で、長いドミノの列が作れるかどうかわからないから、今は保留だね。あとで保育園に確認しよう。【案Ⅱ】のドッジビーで使う円盤は、近くの公民館が無料で貸し出しているから準備できるよ。

〈Dさん〉

【案Ⅲ】の人形劇は、人形を手作りし、練習もするとすると、三週間の準備期間では間に合わないよ。

〈Aさん〉

③ 確かにそうだね。では、これまでの話し合いについて、表を使って、三つの案を整理してみよう。

〈Bさん〉

表にすると、考えがすっきりして検討がしやすくなるね。

〈Aさん〉

保留にしている点を保育園に確認するとして、結果によっては、別の案も必要になってくると思うよ。考えておこうか。

〈Dさん〉

④ これまでの意見の長所を生かせるような案にしたいよね。

〈Cさん〉

④ 先ほどのBさんの、手作りした人形をプレゼントすれば、交流会後も私たちとのつながりができるという意見は、とてもよいと思ったよ。Bさんの意見を生かして、学校や家にある物で簡単に準備できる手作りおもちゃを幾つか持参して、一緒に遊ぶという案はどうかかな。例えば、ペットボトルポウリングなどは、遊んだあとに保育園にプレゼントできるよ。

〈Bさん〉

いいね。その案なら準備可能だし、全員で楽しめそうだよ。

〈Dさん〉

⑤ そうだね。Cさんの案は、よい案になっていると思うよ。

〈Aさん〉

⑤ 私も賛成だよ。今のCさんの案に対するみんなの意見は、交流会の目的に合っていて、準備も可能だということがいいかな。この案が、よりよい案になるよう、さらに検討を続けよう。

(一)

【話し合いの一部】の中の「確かに、」で始まるDさんの発言について説明したものと、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他の人の意見を受け止めたいので、気がかりな点を指摘している。

イ 他の人の意見のよいところを見つけて、全面的に同意している。

ウ 他の人の意見に対して、わかりにくかったところを質問している。

エ 他の人と自分の意見を比較して、よりよい結論にまとめている。

(二) 【話し合いの一部】の中の「三つの案のうち、」で始まるAさんの発言について、ここでの司会の進め方を説明したものととして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の意見にこだわらず、相手の意見を柔軟に受け入れて入れている。
- イ 話し合いの方向を修正するために、一時的に話題を整理している。
- ウ 自分とは異なる考えの根拠を確かめ、自分の考えを主張している。
- エ ここまでの話し合いをまとめ、次に話し合うべき観点を提示している。

(三) 【話し合いの一部】の中に「表を使って、三つの案を整理してみるね。」とありますが、案Ⅰ～案Ⅲについて、Aさんが整理した表として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア

	目的に合う	準備可能
案Ⅰ	○	×
案Ⅱ	保留	×
案Ⅲ	○	○

イ

	目的に合う	準備可能
案Ⅰ	○	保留
案Ⅱ	保留	○
案Ⅲ	○	×

ウ

	目的に合う	準備可能
案Ⅰ	保留	保留
案Ⅱ	○	○
案Ⅲ	保留	×

エ

	目的に合う	準備可能
案Ⅰ	○	保留
案Ⅱ	×	○
案Ⅲ	○	○

※ ア～エの記号について

- 「○」は、目的に合っていること、または、準備可能なことを表す。
- 「×」は、目的に合っていないこと、または、準備不可能なことを表す。

(四) 【話し合いの一部】の中の「先ほどのBさんの、」で始まるCさんの発言について説明したものととして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他の人の意見を複数提示し、それぞれの案のメリットとデメリットを吟味して説明している。
- イ 他の人の意見に対する疑問を、強い調子にならないように言い方に気をつけて発言している。
- ウ 他の人の意見の長所を生かしながら、よりよい結論となるように自分の考えを提案している。
- エ 他の人の意見を深く理解するために、話し合いの展開を踏まえながら具体的に質問している。

(五) 【話し合いの一部】の中に「今のCさんの案に対するみんなの意見は、交流会の目的に合っていて、準備も可能だということでもいいかな。」とありますが、次の文は、このAさんの発言の意図についてまとめたものです。  
 にあてはまる適切な表現を考えて、十字以内で答えなさい。

Cさんの案に対して、現時点で交流会の係全員の  ことを確かめようとしている。

第二 問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

元コンピュータプログラマーの「おれ」は、市職員となってから、市民の詩の朗読音源を集める〈街角の詩〉という企画に携わっていた。路上やライブハウスで朗読される詩の録音活動をしていくなかで、市民の詩に心を動かされた「おれ」は、企画が中止となったあとも個人的に活動を継続し、人々が詩を朗読する場を設けることにした。

結局、プログラムはどこまでいっても人間になれない。

その思いは朗読を聴くたびに強まった。誰かの朗読を聴くたび、機械との違いを見せつけられるような気がした。朗読は一度きりだ。同じ人が同じように読んでも、まったく同じ朗読は二つとない。おれたち人間は自分でも制御できない混沌をかかえていて、詩を読むたびに混沌のかけらが飛び散る。そしてそれを再現することは絶対にできない。だからこそ、ひどく美しく見える瞬間がある。

今、ひとりの女性が朗読を終えた。おれはレコーダーのスイッチを切り、拍手を送る。朗読が終わるたび、拍手をすることになっていた。女性は照れ笑いを浮かべながらステージを降り、入れ替わりに次の演者が上がる。

ここは、路地を抜けた先にある地下ライブハウス。例のライブに参加した時と同じ会場だった。

録音会がはじまって二時間半。十人来ればいいほうだろ、と白井は言ったが、蓋を開けてみればその三倍の人数が集まった。朗読サークルの会員、学習支援教室の子どもたち、駅前の路上アーティスト。コミュニティFMの番組で、ポリリーというパーソナリティが繰り返し紹介してくれたのも大きかった。

三十数名の参加者に対して、事務局はひとり。何とか無事に進んでいるのは、てんでこ舞いになっておれを見かねて、手伝いを申し出てくれた参加者たちがいるからだ。おかげで、おれはステージの進行と録音に集中できている。

壮年の男性が熱演を終え、笑顔でステージを降りた。しかし次に登壇する演者がいない。拍手を送りながらフロアを見渡す。

「次の人は？」

誰からも返事がない。居残って見物している人たちは、互いに顔を見合わせている。

「今の方で最後みたいです」

受付を担当していた参加者からそう告げられた。「そうですか」と答えると同時に、肩の力が抜けていくのを感じる。長時間にわたる録音は、自分が思う以上に神経をすり減らしていたらしい。

「じゃあ、録音会もこれで終わりですね」

誰からもなく、拍手が起った。フロアには参加者の半数以上が残っている。こんなに多くの人が見届けてくれたことに感極まり、涙腺がじわりと緩む。思えば、本当の意味で主体的に何事かをしたのは、これが人生で初めてだったかもしれない。

「本当にありがとうございます」

拍手がやみ、朗読サークルの人たちが目の前に来て頭を下げた。あまりに低頭するので、こちらのほうが申し訳なくなる。

「そんな、そこまで大したことじゃ」

「でも、なくなりそうだった〈街角の詩〉をこうして続けてくれたんだから、やっぱりありがたいことです。私らにとつては、誰かひとりでも聴いてくれる人が増えるなら、こんなに嬉しいことはないですから」

半世紀ほど年上の男性が、混じりけのない笑顔を見せた。

鼻の奥がつんとした。上を向いて涙を堪える。やっぱりやってよかった。一歩踏み出したのは間違いじゃなかった。初めて、正面から他人に認めてもらえた気がする。

解散の空気が流れはじめたころ、「ちょっといいか」と太い声が響いた。無精髭を生やした三十前後の男には見覚えがある。先日のライブでベースを弾いていた。

「こいつが言いたいことあるらしいけど」

そう言つて、隣に立つ気弱そうな男を親指で示す。彼はライブで朗読を担当していた。皆の注目を浴びるなか、青ざめた顔で唇を震わせている。ついさつきもステージでは堂々とした態度を見せていたが、ずいぶん対照的だ。

「……ステージに、立つてない」

虫の羽音くらいの声でようやく吐き出したのは、そのひと言だった。

「そうですか？ さつき録音したと思いますけど」

彼が朗読していたことは明確に覚えている。困惑するおれに、ベースの男が付け加えた。

「違う。あんたさんのことだよ」

二人の男の視線はおれに注がれていた。

「おれは、演者じゃないから。この会を開いただけだし」

たつぷりと沈黙を置いてから、応答が返ってきた。

「……いいんですか」

誰もが目を見張るようなパフォーマンスをしていたあの男が、緊張で震えながらおれにそう言った。態度だけ見れば人が変わったようだが、その奥底にはステージ上にいた時と同じ、熱さを感じた。

胸の奥でくすぶっていた火が、勢いを増していく。

誰かの詩を聴きながら、本当はずっと思っていた。おれにも詩が作れるか

もしれない、と。本当は作りたいんだ、と。街に流れる詩を耳にするたび、身体の内側が言葉で満たされていくようだった。今、体内には行き場のない言葉たちがいっぱい詰まっている。

おれはプログラムじゃない。人間だ。人間はきつと、誰でも詩を読むことができる。

気づけばフロアにいる皆がおれを見ていた。詩人たちは、視線でも詩を語る。その場にいる全員の詩情が、塊になっておれの背中を押していた。

(岩井 いわい 圭也 けいや 「生者のポエトリー」による)

\*をつけた語句のへ注▽

混沌 ———— ものがごとが入りまじって、はっきりしない状態。

例のライブ ———— ここでは、以前「おれ」が録音に訪れた、個人や音楽グループによる詩の朗読会のこと。あとに出てくる「先日のライブ」も同じ。

白井 ———— 「おれ」の勤め先である市役所の上司。

パーソナリティ ———— ここでは、ラジオ番組の司会者のこと。

壮年 ———— 三十代から五十代くらいの、働き盛りの年ごろ。

低頭 ———— 謝意を表すために頭を低く下げること。

問一 本文中に「朗読は一度きりだ。」とありますが、詩の朗読について、「おれ」がこのように思ったのはなぜですか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 朗読の録音会に多くの参加者が集まったため、進行に余裕がないから。
- イ 朗読には高い技術が求められるため、常に成功するとは限らないから。
- ウ 朗読は、その瞬間に沸き上がる感情が現れるため、再現できないから。
- エ 朗読には緊張による疲労が伴うため、休みなく連続して行えないから。

問二 本文中に「肩の力が抜けていくのを感じる。」とありますが、次の文は、このときの「おれ」の様子を説明したものです。□にあてはまる適切な表現を考えて、十字以内で答えなさい。

予想以上に人が集まった録音会を、参加者たちの協力を得ながら何とか進めてきたところ、参加者の言葉によって、無事に□ことに気づかされ、緊張が緩みほぐれていく様子。

問三 次の対話は、本文中の~~~~線部の表現について話し合ったものです。□A□にあてはまる言葉を十二文字で、□B□にあてはまる言葉を七文字で、それぞれ本文中からそのまま抜き出して答えなさい。

〈Xさん〉 どちらも、「おれ」が涙ぐんだ様子についての描写だね。

〈Yさん〉 そうだね。「涙腺がじわりと緩む」という表現からは、録音

会が終わるまで□A□ことに感動しながら、うれしさと感

謝で胸がいっぱいになって、涙がにじんだことが読み取れるね。

〈Xさん〉 「鼻の奥がつんとした」は、なくなりそうだった〈街角の詩〉

を続けたことに対して、参加者から感謝の言葉をもらった場面

での描写だよ。自分が□B□ことは正しかったと肯定的に受

け止め、涙が流れるのを我慢していることが伝わるね。

〈Yさん〉 人生で初めて、本当の意味で主体的に行動できたこと、その行

動を正面から認めてもらったことに、喜びを感じているんだね。

問四 本文中に「気弱そうな男」とありますが、この「男」が、どのような役割を果たす人物として描かれているか説明したものととして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「おれ」が詩に抱いている思いを呼び起こし、詩を読むきっかけを作る人物として描かれている。
- イ 参加者を代表して、「おれ」の進行の仕方に対して不満を述べる人物として描かれている。
- ウ 録音会を終えて安心する「おれ」に、ステージに立つ喜びを説明する人物として描かれている。
- エ 「おれ」に対する感謝の言葉を、勇気を出して熱く伝える人物として描かれている。

問五 本文中に「人間はきつと、誰でも詩を読むことができる。」とありますが、このときの「おれ」の気持ちや五十五字以内で説明しなさい。

【文章Ⅰ】

働きアリは自分たちの巣を守るために、エサの採集、女王が生む子どもたちの育児、そして敵の襲来に対する防御などを行います。自分に与えられた使命を、生涯をかけて果たすように遺伝子によってプログラミングされているのです。

働きアリにとつては<sup>①</sup>そうした生き方こそが自分の遺伝子を共有する姉妹たちの生存率を上げることになり、ひいては働きアリの持つ遺伝子が次の世代に残る確率を最大化することにつながるようになってきているのです。こうしたアリの徹底した社会システムを「真社会性」といいます。

ダーウィンの「自然選択説」に基づけば、真社会性昆虫の巣では、全員が否が応でも働き者になるはずですが、もし、少しでも「怠け者」が出てくれば、ほかの巣とエサや住処をめぐる競争で負けてしまいます。だから「怠け者」の存在する余地なんて「理論上は」寸分もないことになりました。

しかし、<sup>②</sup>事実は理論より奇なり。実際にアリの巣を観察していると、ほかの働きアリがせっせと働いているのを尻目に、1日中、なにもしないで巣穴でゴロゴロして過ごす「怠け者」が存在することがわかったのです。怠け者といえどエサは必要ですから、彼らもちゃんとエサだけは食べます。まさに無駄飯食いです。こんな働きアリが巣に居候されたのでは、全個体が働き者という巣が別に存在したら、その巣に競争で負けてしまい、子孫を残すことが難しくなります。なので「怠け者」を作り出す遺伝子は自然界からは淘汰されて消滅してしまはずです。

ところが怠け者にもちゃんと存在意義があったのです。この怠け者がいる巣から、働き者のアリを除去してみると、今まで怠けていたアリたちが働き者に変化して、せっせと働き出すことがわかったのです。どうやらこの「怠け者」たちは、労働量が不足する事態が発生したときに巣全体の労働量を補填するための予備軍らしいということがわかりました。もし、予備軍がなく、巣全体で100%の労働パフォーマンスを発揮し続けていたら、不測の事態が生じたときにパンクしてしまうことになるでしょう。アリの巣は最初からこの不測の事態を織り込み済みで、常に怠け者が生じるように遺伝的にプログラミングされているのです。

怠け者を「予備軍」と読み替えるだけで、みなさんの中でも、その存在に對する印象がガラリと変わると思います。結局「怠け者」というレッテルは人間の先入観<sup>③</sup>がもたらしたものにすぎず、実際には彼らは働かずにじっと力を蓄えて待機する、という「仕事」をしているのです。

(五箇 公一「これからの時代を生き抜くための生物学入門」による)

【文章Ⅱ】

アメリカの生態学者ティルマンは、草原に生える草の種類をコントロールする実験を行った。その結果、生物多様性が高くなると生産性が高まり、少々の環境変化があっても安定していることが分かったのである。単純に考えると、草原にもっとも成長スピードの速い草を一種類だけ植えることが、いちばん生産性の高い土地の利用法であると思ってしまうかもしれない。しかし現実はそのようなことで、種類がたくさんあったほうが、草原全体の生産性が高くなったのである。

草原の草は一見どれもおなじように見えるが、それぞれの性質は微妙に異なっている。そして、草原はどこもおなじように見えても、実は環境が微妙に異なっている。平坦な草原に見えても、きちんと調べれば土地にちよつとした起伏があることが分かるだろう。草原に雨が降って、その水が流れていく。長年のこのような過程が土を少しずつ削り、起伏が生まれるのである。すると、草原のなかに、少しだけ湿った場所や、少しだけ乾いた場所が生じるだろう。草は種類によって、湿った場所が得意なもの、逆に乾いていて日当たりの良い場所を好むものがある。草の多様性が高いと、草原内のいろんな環境にびったりマッチした草が生えてくるので全体として生産性が高くなるのである。

<sup>④</sup>生物多様性が高いメリットはほかにもある。生態系にはいろんな突発的な出来事が起こる。たとえば、雨が少なくて干ばつが生じる年があるかもしれない。逆に、雨が多すぎて草原が水びたしになる年もあるかもしれない。そんなとき、干ばつに弱い草や、水びたしに弱い草は枯れてしまうかもしれない。生物多様性が高ければ、その場所に干ばつに強い草、水びたしに強い草が生えることが可能だから、突発的な出来事が生じてても、草原全体は安定するのだ。さらに、ある種の病気が流行したときに、草の種類が一種類だけなら草原の全体が枯れてしまう。草の種類が複数あることで、草原全体に及ぶ病気の影響が最小限にとどめられるのだ。ここで学んだように、<sup>⑤</sup>一見無駄なように思えてもいざというときに役立つという性質を冗長性という。冗長性を高めるため、僕は生物多様性を守らなければならないのである。

(伊勢 武史「2050年の地球を予測する」による)

\*をつけた語句のへ注

自然選択説——生存に有利な形質を持つものが生き残り、適応しないものは滅びるといふ、ダーウィン提唱の進化論。

淘汰——ここでは、外界に適応しないものとして滅びること。

補填——不足分を補って埋めること。

レットル——ここでは、ある人物や物事に対する一方的な評価のこと。

問一 【文章Ⅰ】の本文中に「<sup>①</sup>そうした生き方」とありますが、このことを説明したものとして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 生涯をかけて、自分たちの巣を守るためだけに行動し続ける生き方。
- イ 生涯をかけて自分の使命を理解し、徐々に任務を果たしていく生き方。
- ウ 生涯にわたり、女王が生む子どもに、エサの採集方法を教える生き方。
- エ 生涯にわたり、巣を守るよりも自分の遺伝子を残そうとする生き方。

問二 【文章Ⅰ】の本文中に「<sup>②</sup>事実は理論より奇なり。」とありますが、次の文は、このことを説明したものです。□□にあてはまる適切な表現を考えて、十五字以内で答えなさい。

ダーウィンの「自然選択説」の理論に基づけば、真社会性昆虫の巣では、エサや住処をめぐる競争に勝つために全員が働き者になるはずだが、不思議なことに、□□という事実が見つかったこと。

問三 【文章Ⅰ】の本文中に「<sup>③</sup>先入観」とありますが、次の対話は、このことについて【文章Ⅱ】と比べて話し合ったものです。□□にあてはまる言葉を、【文章Ⅱ】の本文中から八字でそのまま抜き出して答えなさい。

〈Xさん〉 【文章Ⅰ】でいう「先入観」は、人間があらかじめ持つてしまっている、働きアリに対する一方的な見方のことだね。

〈Yさん〉 そうだね。そして【文章Ⅱ】の本文中にも、この「先入観」と類似する、人間のものの見方が例示されているよ。

〈Xさん〉 確かにそうだね。【文章Ⅱ】の、草原に生える草の種類をコントロールする実験の例では、「単純に考えると」という表現が用いられ、一番生産性の高い土地の利用法は、最も成長速度の速い草を□□ことだと思われやすいと書かれているよ。

〈Yさん〉 二つの文章中に現れた、人間のものの見方には、似通ったところがあるんだね。

問四 【文章Ⅱ】の本文中に「<sup>④</sup>生物多様性が高いメリット」とありますが、次の文は、このことについて、筆者が述べていることを説明したものです。あとの(一)、(二)の問いに答えなさい。

生物多様性が高いことで、草原内の□□Aに適合した草が生えてくるため、草原全体としての生産性は高くなる。また、生物多様性が高いと、□□Bことにもなる。

(一) □□Aにあてはまる言葉を、【文章Ⅱ】の本文中から六字でそのまま抜き出して答えなさい。

(二) □□Bにあてはまる表現として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 病気の流行は起こりやすくなるが、一方で気象の変化には強い草が生き残る
- イ 草原は不安定になるが、極端な環境の変化や病気の流行が起きたときには逆に安定する
- ウ 極端な環境の変化が起きたあとには、より病気に強い種類の草が生まれる
- エ 極端な環境の変化や病気の流行が起きたときに、草原全体が被る影響を最小限に抑える

問五 【文章Ⅱ】の本文中に「<sup>⑤</sup>一見無駄なように思えてもいざというときに役立つという性質を冗長性という。」とありますが、【文章Ⅰ】の本文中にも、この「冗長性」が現れている事例があります。その事例の内容を、五十字以内で説明しなさい。

第四問 次の【漢詩】と、その【書き下し文】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【漢詩】

農謡五首其五

方岳

漠漠余香着草花

森森柔緑長桑麻

池塘水満蛙成市

門巷春深燕作家

【書き下し文】

農謡五首其五

方岳

漠漠たる余香草花に着き

(草花が一面に咲き)

森森たる柔緑桑麻長す

(桑の木も麻も丈が伸びた)

池塘水満ちて蛙は市を成し

(かえるたちは市場のようになぎやかさだ)

門巷春深くして燕は家を作る

(村里の春は深まつて)

〔「秋崖集」による〕

\*をつけた語句のへ注

漠漠——たちこめるさま。

余香——あり余るほど豊かな香り。

森森——さかんに茂るさま。

柔緑——柔らかい緑の葉。

池塘——ため池。

問一 この【漢詩】の形式を何というか、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 五言絶句
- イ 五言律詩
- ウ 七言絶句
- エ 七言律詩

問二 【書き下し文】を参考にして、【漢詩】中の「着草花」に返り点を付けなさい。

問三 次の対話は、【漢詩】について話し合ったものです。あとの(一)、(二)の問いに答えなさい。

〈Xさん〉 この【漢詩】は、全体を通して、晩春のAが、さまざま感覚に訴えるように表現されているよ。

〈Yさん〉 そうだね。第三句の「蛙成市」は、B様子が、にぎわう市場にたとえられているね。

〈Xさん〉 そのときの情景を思い浮かべると、耳にも聞こえてくるように感じられて、おもしろいと思ったよ。

(一) Aにあてはまる表現として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 農民の豊かな暮らしぶり
- イ 生命感あふれる村里の風景
- ウ 動物たちの荒々しい息遣い
- エ 大自然に調和する村人の姿

(二) Bにあてはまる適切な表現を考えて、十五字以内で答えなさい。

第五問

ある中学校の図書委員会では、読書週間に合わせて、読書の魅力を伝えるキヤッチコピーを全校生徒から募集し、校内に掲示することにしました。次の【キヤッチコピー】の□に入れる言葉として、あなたはどのような言葉がふさわしいと考えますか。その言葉がふさわしいと考えた理由も含めて、百六十字～二百字で書きなさい。

【キヤッチコピー】

読書はあなたを□に連れて行く